



令和2年6月26日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育7月のねらい」

布施奉仕

「やさしさの連鎖」

園長 佐藤和順

今月の保育の目標は「布施奉仕(ふせほうし)誰にでも親切にしよう」です。「布施」とは見返りを求めないで他人に与えること、「奉仕」とは社会や他人のために尽くすことです。他人に親切にすることはまわりまわって自分にもどってきます。そうした利害をぬきにして、どんなときも隠れた親切が、社会を明るくすることを子どもには知らせたいものです。

昨年話になりますが、那覇市の高校生が親戚の葬儀に参列する移動中に財布をなくし途方にくれているところ、見ず知らずの男性に助けられたとのニュースがありました。高校生に善意の手を差し伸べた男性は、「人が困っている時には助けてあげたい」と語っていました。そのニュースを聞き、真っ先に思い浮かんだ言葉が「布施奉仕」でした。身近によく知っている人ならまだしも、見ず知らずの人が困っていたら助けてあげたい、また実際に助けたというところに尊敬の念を抱きます。

さて、コロナ禍のために1学期も終わりに近づいた7月から、ようやく通常の保育が開始となります。4月に入園した子どもも徐々にではありますが園生活に慣れてきているようです。初めは先生や年長のお兄さん、お姉さんに助けをもらうことが多かった子どもも、これからは困っている友達を見つけると「困っているよ」と先生に教えてくれたり、「どうしたの?」と自分から声をかけたりする姿もみられるようになることでしょう。その行為は決して見返りを求めているのではなく、単純に自分の目の前で友達が困っている状況に出会い、何とかしてあげたいと自然に出た行動です。年齢に関係なく小さな子どもでも自分のできる範囲で他人に親切にする・尽くすことができるのです。まさに「布施奉仕」です。

園では「ありがとう」の言葉を大切にしています。子どもの良い行いを見たら先生が率先して「ありがとう」と声をかけます。「ありがとう」と言われた子どもは、とてもうれしそうに満面の笑みを浮かべています。ほめられたという嬉しい気持ちが自己肯定感を高めますし、また次の良い行動につながっていくのです。人に何かしてもらうことは当然のことではなく、感謝の気持ちを持つことはとても大切だということも学んでいることでしょう。子どもに負けないように先生同士も困っていることがあれば助け、助けられたら声に出して「ありがとう」の気持ちを表していくことを心がけています。

まずは、子どもに一番身近な私達が「布施奉仕」の行動を実践していきたいと 思います。そして、小さなやさしさが連鎖し、「ありがとう」の言葉がたくさん あふれるような社会になることを切に願います。

